

## I 職員自己評価

## 1 本年度の取組

- 新型コロナウイルス感染症対応を講じながら学校運営を実践し、当初の計画どおり前後期2回自己評価を行った。7月の自己評価では、コロナ禍での職員の課題や学校として改善が必要な部分、共通理解すべき点等が明確になった。個々の意見は、人事評価の中間面談で把握し、今後の努力事項を職員会議等で全体で確認した。

2月の自己評価では、ふるさと教育や研修（ICT教育）面での課題が浮き彫りになった。全体を通して、学校経営と職員自己評価項目をリンクさせ、経営の重点に示した内容を評価項目に直接反映させた内容にすることで、個々の経営と実践、振り返りを行い、本校の学校経営におけるPDCAサイクルを機能させ、学校運営を進めた。

## 2 評価の分析

## (1) 前期評価

- ・ 学校経営の重点に関連する評価項目に盛り込んだアンケートを実施した。自己評価は、おおむね肯定的であった。特に「学習指導」「安全管理」「その他（不祥事防止・安全運転・職場環境）」の分野の数値が高かった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」に対応するため「ふるさと教育」「総合学習」「国際教育・食育」の項目で、各種教育活動等が十分に実施できなかったことが数値が低くなった要因と考えられる。
- ・ 「指導力を磨く」については、研修を通して学ぶ理論研修・伝達研修を実践し、新しい学びに対応してきたが、自己評価は低かった。単学級が故に授業の相互参観も難しく、互いの磨き合いをする場が設定できなかった。感染状況を踏まえつつ、9月から機会を設けていくことを確認した。
- ・ 自己評価を実施し、自らを振り返ることで、新しい学びへの転換、自己の指導の在り方、自分に不足している点等を客観的に評価できたことは大きな利点であった。

## (2) 後期評価

- ・ 第5波、第6波のコロナ対応を踏まえた学校運営であったが項目全体を見ると、第1回の評価からおおむね改善されている点が多かった。特に「安全管理」や「生徒指導」の分野の数値が高かった。  
一方で、「教育課程」分野で、「ICT教育」の数値が低下したことが気になった。要因としては、タブレット端末の本格運用が始まったことに教員の戸惑いと運用への準備不足が考えられる。次年度の大きな課題である。
- ・ 特に評価数値が低かった「道徳教育」「ふるさと教育」「ICT教育」「研修（授業相互参観）」の項目は、研修を計画的に行い、今後ブラッシュアップしていく。
- ・ 「働き方改革」については、業務の質と量を各自で考え、「時間外勤務時間45時間以内」に努め、大きな成果を上げた。次年度も継続して取り組んでいく。
- ・ 40項目全体を通してのAベレージが3.5になり、期待値3.2を0.2上回った。（昨年度後期の数値は3.4）
- ・ 年2回実施している自己評価を、職員個々の反省のみに終わらせることなく、個々の業務へのモチベーション向上につなげていく更なる工夫が、次年度に向けて必要になっていく。

## II 児童アンケート

### 1 本年度の取組

- 新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ通常の教育課程を実施し、第1回評価を7月（評価項目数16）、第2回評価を2月（評価項目数16）に行った。

学校教育目標の「自ら学ぶ子供」「心豊かな子供」「たくましい子供」に則り、評価項目は16項目（総括1を含む）である。

### 2 評価の分析（第2回アンケートから）

- ・ 16項目中12項目で肯定評価90%以上の高い評価が得られた。学校生活全体の振り返りについては98%の児童（9月は95%）が「とても楽しい（よくできた）」「楽しい（できた）」の肯定的な回答であった。コロナ禍で教育活動が制限された中、学校生活に満足できた児童が多いことは大変喜ばしい結果である。
- ・ 学年別に見てみると多少の差があることが分かる。否定傾向の回答をした児童については、日常の観察や教育相談、個別の支援、寄り添いを続けていくことを職員全体で確認した。（課題がある場合は、個別に管理職が職員と面談し対応）
- ・ 「自ら学ぶ子」の項目では「読書活動」と「家庭学習」についての回答が低めであった。これは新型コロナウイルス感染症の影響で、子供たちの家庭での生活様式が変化したことが要因の一つであると予想できる。
- ・ 「心豊かな子」の項目は、5項目全てが肯定的評価94%を上回った。中でも「明るい挨拶」と「掃除の取組」の項目が高かった。これは、職員自ら明るい挨拶を心掛けようと年度当初から進めてきたこと、縦割り活動での異学年仲良し清掃が成果を上げた結果であると考えられる。
- ・ 「たくましい子」の項目は、5項目中2項目が肯定的評価90%を下回った。「外遊び」に関しては、少なからずコロナの影響があり、思いっきり外で遊ぶことができなかったことが要因と考えられる。また、「栄養ある食事」に関しては、好き嫌が多い実態が反映していると思われる。「新しい生活様式」の継続とともに2つの項目を充実させていきたい。
- ・ 本年度は、重大事態につながるようないじめ案件は発生していないが、小さなトラブルは各学年で発生している。いじめや児童間の問題行動に対しては、危機管理の5原則（最悪を想定して・慎重に・素早く・誠実に・組織的に）を常に心掛け、早期発見と適切な対応に今後も努めていく。

## III 保護者アンケート

### 1 本年度の取組

- 評価項目を20項目と精選し、学校教育目標と関連させた内容で、当初の計画どおり7月と2月の2回実施した。

内訳は、昨年までと同様に「A教育活動」「B教育環境」「C学校と家庭の連携」「D自分の子供」「E家庭・地域」である。

### 2 評価の分析（第2回アンケートから）

- ・ 「A教育活動」については、肯定的評価が92%、アベレージが3.3であった。昨年度との比較でそれぞれ3%、0.1向上した。

「経営の方針」「分かりやすい授業」の評価が高い一方で、「道徳教育・いじめ対策」「多様性・個別の支援」の項目は低くなった。昨年度と比較して向上傾向にあるが、今後も学校として真摯に取り組んでいきたい項目である。教職員の共通理解が重要になっていく。

- ・ 「B教育環境」については、肯定的評価が93%、アベレージが3.3であり、おおむね昨年度同様の数値であった。ソフト・ハード両面で教育環境を整えた結果が評価された。

- ・ 「C学校と家庭の連携」は肯定的評価が92%、アベレージが3.3であった。昨年度との比較でそれぞれ3%、0.1向上した。

これは、昨年度の課題であった「家庭への連絡」の項目が、職員への指導により向上したことが要因に挙げられる。一方で、「学校と家庭の信頼関係」については、アベレージが3.1になり評価が低迷した。このことを真摯の受け止め、教員の資質・能力向上の研修を徹底し、地道で確実な学校経営を心掛けることで、保護者との信頼関係を高めていきたい。

- ・ 「D自分の子ども」に関しては肯定的評価92%、アベレージは3.3であった。昨年度との比較で肯定的評価が3%向上した。

「楽しく登校」の項目はアベレージが3.5になり、20項目中最高値であった。コロナ禍が続く中においても保護者がそのように捉えてくれたのは、この上ない喜びである。「時と場に応じた挨拶」「家庭学習」については、今後もコロナを踏まえた対応とタブレット活用等を保護者と連携を密に進めていく必要がある。学校としてしっかりと対応していきたい。

- ・ 「E家庭・地域」では、「コロナ対策・規則正しい生活」に関する項目が99%、アベレージがが最高値の3.5であった。コロナ禍が続き保護者の意識の向上が分かる結果となった。「授業参観・PTA活動参加」の項目は、昨年度同様であった。

「地域の協力」については、肯定的評価が76%、アベレージが2.9であった。それぞれが最低の数値であったが、昨年度との比較では若干改善した。これは、感染対策を十分に講じながら、地域の教育力を可能な限り取り入れたことが要因と考えられる。

現行学習指導要領の柱の一つである「社会に開かれた教育課程」を実現していくためにも、なお一層の工夫と努力を重ねていきたいと考える。

- ・ 自由記述については、学校への感謝や子供たちの素直な様子、活動を認めてくださる記述が大変多く、教職員の励みになっている。一方で、「交通安全」「コロナ対応」、「教育指導」等、保護者からの視点で学校として努力が必要な事柄についての貴重な指摘があった。それらを分析し、真摯に的確に対応していきたいと考える。

「すべては子供たちのために」のスローガンの下、教職員の力を結集し努力していく決意である。

## IV 学校関係者評価

### 1 本年度の取組

○ コロナ禍ではあったが、第1回の学校評議員会を7月2日（金）、第2回を11月10日（水）、第3回を3月4日に年間3回実施することができた。

### 2 参加者及び回答者 学校評議員 5名

### 3 具体的な意見（別添の関係者評価を参照）

- ・ 昨年度に引き続き、コロナ禍の学校運営であり、今年度も子供たちの指導を行う上で、苦勞なさったのではないかという温かい言葉を頂戴した。「先が見えない中でも子供たちの学びの保障と、楽しい学校づくりを推進していて素晴らしい。」「次年度も子供たちのために継続してほしい。」「古城小学校が良い学校という声を耳にする。」という御意見をいただいた。詳細は、別添の「関係者評価」に記載した。

## V まとめ・考察

### 1 公表・情報発信

(1) 職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートの結果は、前期・後期ともにホームページにアップした。主な評価項目の数値と意見・要望等に対する回答は、学校便りを通じて全家庭と地域に配付した。

「学校評価のまとめ」と、第2回保護者アンケートの自由記述における意見・要望については、一部割愛しホームページに掲載した。

(2) 職員の自己評価や児童・保護者のアンケート結果等を、学校評議員に公表し、意見を頂戴した。（学校関係者評価）

(3) 学校関係者評価（対面と書面）を実施し、学校評議員の立場から学校経営について助言をいただくことができた。

### 2 家庭や地域との連携

(1) 本校の学校経営の重点「安全・安心」「信頼」を礎にした学校づくりを推進、継続、充実させていく。具体的には「児童と教職員の活みなぎる学校」「児童の笑顔と笑い声があふれる学校」を目指し努力を重ねていく。

(2) 保護者や地域の声を受け止め「地域に根ざした・地域と歩む学校づくり」を推進する。

◇こまめな学校便り発行・HP更新

◇学校公開の実施（感染対策を講じて）

◇個別面談の実施（感染対策を講じて）

◇保護者アンケートの記述欄重要視

(3) 学級便りの書面を工夫し、児童の教育活動等の様子を伝える。

(4) 学習指導要領の改訂で教育課程がどう変わり、新しい学びがどう進められていくのかを、機会を得て保護者に丁寧に説明していく。

### 3 授業改善、指導力の向上

(1) 学力の向上に向けて、家庭学習の充実には引き続き努力していく。学力向上委員会の機能を高め、基礎学力及び情報活用能力の向上を目指し、教職員が共通した認識の下、「新しい学び」に対応した研修を充実させる。

(2) 「新しい生活様式」「With コロナ」を前提に、研修・教材研究・授業準備の時間を確保し、授業で勝負できる教員を育成する。

- (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努力する。令和3年度は、「対話的な学び」を中心に取り組んだので、次年度は、それを基に「深い学び」につなげる授業改善を進める。(ふるさと学習・福祉教育へも取り組んでいく。)

#### 4 心の教育の充実

- (1) いじめやいじめにつながる行為を見逃さず、未然防止や早期発見・早期対応に組織的に取り組み、児童にとって安全・安心な学校を目指す。そのために、教職員が古城小いじめ対策基本方針を理解し、子供に寄り添った個別指導、組織での対応ができるようにする。(職員研修の充実)
- (2) 生徒指導委員会の活用を図り、いじめゼロアンケートや友達アンケートの実施を毎月計画的に行う。そして、アンケートの分析、事後指導を確実に行うとともに、教育相談週間を設け活動の充実を図る。
- (3) いのちを大切に作るキャンペーン、ふるさと教育、縦割り活動、キャリア教育、栽培活動、読書活動・体験活動等を通して、思いやりの心を育てる。
- (4) 道徳教育推進教師を中心に、道徳科授業のなお一層の充実を図る。
- (5) 体力向上委員会を中心に、感染対策を講じた上での体力の向上を図る。
- (6) 情報教育モラル教育や情報リテラシーについて推進していく。

#### 5 組織の活性化、人材育成

- (1) 特別委員会をより一層機能させ、学校としての改善点を出し合い、具体的な活動を担当が提案し、全職員が共通理解の下、実践へとつなげていく。
- (2) パーソナルキャリアを基に教職員一人一人の個性や能力を発揮させ、組織の活性化を図るとともに、主に若年層職員の資質・能力の育成と人材活用を積極的に行っていく。
- (3) 働き方改革について、教職員一人一人の意識の変革と個々が仕事のやりがいを感じることでできる職場環境づくりに努める。「誇り」と「自覚」を持って子供たちの前に立つ教職員を育成する。(保護者・地域へも積極的に周知する。)

#### 6 教育課程の編成

- (1) 児童一人一人の学びが保障できる教育活動を展開する。
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて努力する。今年度は「対話的な学び」の観点から各教科の実践を推進していく。
- (3) 特別の教科・道徳と5、6年の外国語科については、今年度の反省を踏まえて、教科の専門性を高める研修を実施する。

#### 7 教職員の不祥事根絶

- (1) 不祥事根絶に向けて研修の充実を図り、教育公務員としての自覚を職員一人一人が高めるため、計画的・継続的な研修を行う。(モラールアップ研修を中心に)
- (2) 不祥事を起こさない、起こさせない人間関係づくりや職場環境づくりを大切にしていける。(当事者意識を常に持って取り組む)
- (3) 教職員が児童と関わる時間を確保し、心にゆとりが持てる働き方改革を推進する。